

SUPER
FORMULA

STAGE

superformula.net

2019 Vol.4

INDEX

- 2019 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 千代勝正が語るコースガイド ③
- ショートインタビュー 本山 哲 ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは——
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
https://superformula.net

JRP
Japan Race Promotion Inc.

INTERVIEW NO.4

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS
ドライバー

大嶋和也

Kazuya OSHIMA

2018年4月22日。全日本スーパーフォーミュラ選手権開幕戦の決勝日の朝。宿から鈴鹿サーキットに向かうクルマの中で、UOMO SUNOCO TEAM LEMANSの片岡龍也監督は、1本の電話を受けた。『山田健二エンジニアがホテルで亡くなった』。傍らにはドライバーの大嶋和也。電話を切った片岡は、今聞いたばかりの話を大嶋に伝える。何が何だか分からなかった。クルマがサーキットに着くと大嶋は急いでピットへ。そこにF3時代から何年も組んできた“健二さん”の姿はない。訃報が現実だと分かると大嶋は控室に入り、目が真っ赤になるまで泣き続けた……。

1987年4月30日に、ラリードライバーである大嶋勝治の長男として生を受けた和也は3人兄弟の真ん中で、姉と弟がいる。だが、小さい時から父のラリーの現場に行くのはもっぱら和也。唯一クルマに興味を示す子供だった。ただ、ラリー車には免許がなくては乗れない。そのため、8歳の頃から乗り始めたのがレーシングカートだった。小学校の授業が終わると、校門に迎えに来る父。その父と、自宅から30分ほど離れたカート場にほぼ毎日通い、1日に4時間も5時間もレンタルカートで走った。とにかくカートもレースも楽しくて仕方がなかった。全日本ジュニアカート選手権では小林可夢偉や平手晃平と戦い、チャンピオンを獲得。中学に上がると全日本選手権にステップアップし、そこでも数々のタイトルを物にする。

その一方、FTRS（フォーミュラトヨタ・レーシングスクール）を受講してスカラシップを獲得。2004年にはフォーミュラトヨタで4輪レースデビューを果たした。その後大嶋は順調に階段を上っていく。フォーミュラトヨタ2年目にはタイトルを獲得して、全日本F3にステップアップ。初

年度から3勝を挙げてシリーズ2位という活躍を見せた。この時、大嶋は初めて山田エンジニアと組んだ。最初はおっかなくて仕方がない存在だった“健二さん”。だが、データの見方もセットアップの組み立て方も、何もかも教えてもらった。当時、御殿場で一人暮らしを始めた大嶋は、毎日チーム（トムス）の工場に出勤し、山田エンジニアと常に顔を合わせていた。ウーロン茶を飲みながら、深夜までの酒席に付き合い、厳しい説教を受けることもたびたび。それだけ濃密な時間を2人は送り、大嶋は2年目に全日本F3タイトルを獲得。ヨーロッパへと旅立った。

そのヨーロッパでの活動は、トヨタのF1活動終了とともに、わずか1年で終了。大嶋は帰国して、トムスからフォーミュラ・ニッポンに参戦を開始する。2年目には初優勝も果たした。そして、3年目となる2011年には、チーム・ルマンに移籍。そこには、一足先に移籍していた“健二さん”がいた。2人はこの年から、スーパーGT500クラスでもタッグを組むことになる。トップカテゴリーに上がってきた大嶋と山田エンジニアの関係は、次第にプロ同士の関わりへと発展。だが、大嶋の

移籍2年目。山田エンジニアはフォーミュラでは他のドライバーを担当することになり、一方の大嶋はクルマの不調に苦しんだ。結果、その年の終わりには一旦シートを喪失することになる。

「ちゃんとした体制で乗れないならいいや」。その時は余り悔しかなかった。だが、常にフォーミュラの結果は気になる。次第にチャンスがあればもう一度という気持ちが大きくなっていった。そして、フル参戦という意味では5年のブランクを経て、同じチーム・ルマンからカムバック。もちろん“健二さん”ともう一度組みたかった。それでもチーム側の事情で初年度は組めなかった。そこから色々な根回しをして、ようやく山田エンジニアと再度フォーミュラで組めるとなったのが昨年。テストではなかなか思うようなセットアップが見つからず、開幕戦の予選結果も良くなかった。だがこの日、大嶋は「ようやく思うようなセットアップの方向性になってきたと、“健二さん”と話していたところだった」。その夜には山田エンジニアが決勝に向けてのセットアップも用意してくれていた。だから、大嶋は悲しみを押し殺しながらレースを走った。気持ちの整理も何もでき

ていない。ただ、“健二さん”が用意してくれていたものを無駄にしたいはなかった。

喪失感の残る中でのその後のシーズン。大嶋が気づいたのは、「自分がいかに“健二さん”に甘え、頼っていたか」。山田エンジニアには、何も言わなくても大嶋の言わんとしていることが伝わっていた。好みのセットアップもすべて理解してくれていた。だが、他のエンジニアと組む場合には、大嶋がすべて説明し、エンジニアとのコミュニケーションを深めていかなければならない。山田エンジニアを失ったことで、大嶋はドライバーとして「さらに一歩階段を上らなければいけない」と気づいたのだ。

そして今年。チーム・ルマンには、山田エンジニアの哲学をも知る阿部和也エンジニアが加入。大嶋とまたイチからコンビネーションを作り始めている。2人は早くも第2戦オートポリスで表彰台を獲得。2年前に3位表彰台を獲得したときのような燃費作戦ではなく、速さでもぎ取った結果に大嶋も今までにない手応えを感じたという。今後、この新コンビは、どんな上昇カーブを描いていくのか。物語は次の章へと続いていく。



協力: UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

2019 ENTRY LIST

全日本スーパーフォーミュラ選手権 エントリーリスト (2019年7月9日時点)

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング

1 **山本尚貴** Naoki YAMAMOTO
1988年7月11日生 / 栃木県 [日本]

RANKING 1 POINTS 27



DOCOMO DANDELION M15 SF19

HONDA

昨年の最終戦で劇的な逆転勝利により、2013年以来2度目の王座に輝いた。今季8年間在籍したTEAM MUGENを離れ、新天地でも実力を発揮。第3戦で優勝した。

<http://www.naoki-yamamoto.com>

5 **福住仁嶺** Nirei FUKUZUMI
1997年1月24日生 / 徳島県 [日本]

RANKING 7 POINTS 8



DOCOMO DANDELION MSY SF19

スーパーフォーミュラには昨年デビューしたが、F1直下のF2とのかけもちだったためフル参戦は今季が初めて。山本とともにチームを移り、第2戦で初入賞、第3戦でも入賞した。

https://twitter.com/nirei_fukuzumi

KONDO RACING

コンドーレーシング

3 **山下健太** Kenta YAMASHITA
1995年8月3日生 / 千葉県 [日本]

RANKING 3 POINTS 11



ORIENTALBIO KONDO SF19

TOYOTA

2016年に全日本F3王者となり、翌年スーパーフォーミュラに。その年の第4戦もてぎで初のポールポジションを獲得。今季開幕戦で3位表彰台、第2戦、第3戦と連続入賞している。

<http://kentayamashita.jp>

4 **国本雄資** Yuji KUNIMOTO
1990年9月12日生 / 神奈川県 [日本]

RANKING 11 POINTS 5



ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた、現役では最年少のチャンピオン。今季、8年間在籍したセルモインギングから移籍し、第2戦でポールポジションを獲得した。

<http://yujikunimoto.com>

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモスノコチームルマン

7 **アーテム・マルケロフ** Artem MARKELOV
1994年9月10日生 / ロシア [ロシア]

RANKING — POINTS 0



UOMO SUNOCO SF19

TOYOTA

レーシングカートから、フォーミュラレースに進み、ドイツF3やGP2、F2で戦ってきた。F2では昨年シリーズ2位。昨年は、ルノーF1のテストドライバーも務めた。

<http://amarkelov.com>

8 **大嶋和也** Kazuya OSHIMA
1987年4月30日生 / 群馬県 [日本]

RANKING 8 POINTS 6



UOMO SUNOCO SF19

2011～12年にTEAM LEMANSに在籍し、2017年より再びチームに加入。名門復活に向けてチームを牽引する。今季は第2戦で3位入賞。さらなる躍進が期待される。

https://twitter.com/oshima_kazuya

TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 **パトリシオ・オワード** Patricio O'Ward
1999年5月6日 / メキシコ [メキシコ]

RANKING — POINTS —



TEAM MUGEN SF19

HONDA

ダニエル・ティクトゥムに代わり、今大会から新規参戦。昨年、アメリカのインディライツシリーズでチャンピオンを獲得。今年はいんディカーシリーズに参戦している。

<http://www.patriciooward.com>

16 **野尻智紀** Tomoki NOJIRI
1989年9月15日生 / 茨城県 [日本]

RANKING 10 POINTS 5



TEAM MUGEN SF19

デビューした2014年に初優勝し、一躍注目の存在に。翌年から毎年ポールポジションを獲得と速さは折り紙つき。5年間在籍したチームから今季移籍し、開幕戦で4位を獲得。

https://twitter.com/tomoki_nojiri

REAL RACING

リアルレーシング

17 **塚越広大** Koudai TSUKAKOSHI
1986年11月20日生 / 栃木県 [日本]

RANKING — POINTS 0



REAL SF19

HONDA

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌年から現チームに移籍し戦ってきた。開幕戦に出場したトリストラン・シャルバンティエに代わり、第2戦から復帰した。

<http://www.tsukakoshikoudai.net/>

carrozzeria Team KCMG

カロツゼリア チーム ケーシーエムジー

18 **小林可梦偉** Kamui KOBAYASHI
1986年9月13日生 / 兵庫県 [日本]

RANKING 5 POINTS 8



KCMG Elyse SF19

TOYOTA

F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。優勝目録まで行きながらまだ勝利はないが、今季は第3戦で2位入賞。2016年からは世界耐久選手権(WEC)でも活躍している。

<http://www.kamui-kobayashi.com/>

ここに注目!

まずは予選Q1が第一関門。富士ならではの戦略に注目

昨年は厳しい暑さとなる中、ニック・キャッシュディが初優勝を果たしたこのレース。今年はどういう争いが繰り広げられるのか。7月に入ってからも、富士スピードウェイ周辺は曇りや雨の梅雨空が続いているが、チームとドライバーの熱気が灰色の雲を吹き飛ばしてくれることを期待したい。

さて、その富士では3月下旬に今季からのニューシャシーSF19を使用している合同テストが2日間に渡って行われた。つまり各チーム、ドライバーにとっては、徐々に走行データが豊富なサーキットに戻ってくることになる。そのテストでは、現在ランキングトップのディフェンディングチャンピオン、山本尚貴が1分21秒742という2日間の総合トップタイムをマーク。これに約100分の6

秒という僅差で続いたのが、現在ランキング3位につける山下健太だ。さらに、平川亮、小林可梦偉、アレックス・パロウ、ニック・キャッシュディと続いたが、トップから18番手までのベストタイムが1秒以内。例年通り、富士ではタイム差が非常に接近している。

この傾向は今年の予選でも顕著に現れるだろう。わずかコンマ1秒、あるいは100分の数秒が、各ドライバーの明暗を分けるはずだ。特にQ1では20台が一度にコースインするため、うまくスペースを作ってアタックできたが、タイヤを思い通りに温められたかどうかによって結果が大きく変わってくる。今年はこのQ1で8台が敗退するため、各ドライバーにとって、ある意味最難関といってもいい。前戦のSUGOでは10台ずつ2組に別れて

Q1が行われたが、実力派ドライバーの多くがまさかの敗退。また、その後のQ2を経て、Q3に残った8台のうち7台がホンダエンジンユーザー勢となり、トヨタエンジンユーザーは可梦偉1人という意外な結果となった。しかし、富士はトヨタのホームコース。今回の予選では巻き返しを図ってくるのかどうかが見どころの一つだ。

また、富士では決勝の展開が違って来るはず。前戦のSUGO、また第2戦のオートポリスでは、オープニングラップを終えて早くもピットインするドライバーが複数名いた。そこから燃費をセーブしつつ、見えないタイム差を削っていくという作戦。実際、それによって大きくポジションを上げたドライバーもいた。しかし、富士では燃費の問題から、この作戦は取れないのではないかと懸念される。そうすると、まずは予選のポジションが重要になってくる。とは言うものの、富士は比較的オーバーテイクしやすいコース。今季、運用が変わったオーバーテイクシステムによって、抜きつ抜かれつのバトルも

生まれる可能性がある。ラップタイムから考えて、一度オーバーテイクシステムを起動させると、次の周は使えない。そのため、一旦オーバーテイクシステムを使って前車を追い越したドライバーが、次の周には逆に追われる立場となる場合も出てきそうだからだ。そのあたりの駆け引きも注目のポイントだ。

ここまでの3戦はキャッシュディ、関口雄飛、山本と毎回勝者が違おうが、今回の富士でも新たな勝者は誕生するのか。テストからの速さがまだ結果に結びついていないパロウや開幕戦ポールポジションの牧野任祐が上位に食い込んでくるのか。いずれも2度のタイトルを獲得している中嶋一貴や石浦宏明が、そろそろ本領を発揮するのか。あるいは今年も常に上位での争いを見せている可梦偉がいよいよ初優勝を果たすのか。その他にも、注目すべきドライバーは多い。その中から誰が抜け出してくるのか、シーズン折り返しの富士戦は今後の流れを決める上でも重要な1戦となる。

Team Pit — ピット割り

TCR										
45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35
ピットビルB (No.35-45)										

34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ピットビルA (No.1-34)																																	

Starting Grid — スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

1	No.	2	No.	3	No.	4	No.	5	No.	6	No.	7	No.	8	No.	9	No.	10	No.	11	No.	12	No.	13	No.	14	No.	15	No.	16	No.	17	No.	18	No.	19	No.	20	No.
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----



: Twitter



: Facebook



: Instagram



★ は今季スーパーフォーミュラルーキー

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL TOYOTA

イトウチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛

Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生 / 東京都



RANKING 4 POINTS 10

スーパーフォーミュラにデビューした2016年に2勝し、翌年2勝、昨年1勝する活躍ながらまだタイトルの経験はない。今季も第2戦で優勝、初のチャンピオン獲得を目指す。



<https://twitter.com/yuhisekiguchi>

20 平川亮

Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生 / 広島県



RANKING - POINTS 0

2013年に19歳でスーパーフォーミュラにデビュー。昨年2015年以來3年ぶりに復帰し、初のポールポジション、2度の表彰台と光る走りを見た。今季は初優勝が期待される。



<https://twitter.com/ryohirakawa>

VANTELIN TEAM TOM'S TOYOTA

バンテリン チーム トムス

36 中嶋一貴

Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生 / 愛知県



RANKING - POINTS 0

2012、14年のチャンピオン。父は元F1ドライバーでナカジマ・レーシングの中嶋悟監督。自身もかつてF1で活躍した。昨年に続きル・マン24時間レースで2連覇を遂げた。



<http://www.kazuki-nakajima.com/>

37 ニック・キャシディ

Nick CASSIDY
1994年8月19日生 / ニュージーランド



RANKING 2 POINTS 16

2017年にスーパーフォーミュラにデビュー、昨年は富士で初優勝し、タイトルを争った。今季、コンドレーシングより移籍し、開幕戦で優勝。新チームで再び王座獲得を目指す。



<https://twitter.com/nickcassidy>

JMS P.MU/CERUMO-INGING TOYOTA

ジェームス ピーエムコーセルモインギング

38 石浦宏明

Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生 / 東京都



RANKING 14 POINTS 2

2015、17年のチャンピオン。現役では最年長ながら実力はトップレベルにあり、昨年も第5戦までで優勝し、最終戦までチャンピオンを争った。3度目の王座獲得を狙う。



<https://ameblo.jp/ishiura/>

39 坪井翔

Sho TSUBOI
1995年5月21日生 / 埼玉県



RANKING 12 POINTS 4

昨年、圧倒的な速さと強さで全日本F3王者に輝き、今季スーパーフォーミュラにデビュー。開幕戦で5位初受賞と注目の存在だ。スーパーGTでも今季GT500クラスへ昇格した。



<http://xyz-one.jp/tsuboi/>

B-Max Racing with motopark HONDA

ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク

50 ルーカス・アウアー

Lucas AUER
1994年9月11日生 / オーストリア



RANKING 6 POINTS 8

ドイツ&ヨーロッパF3を経て、DTM(ドイツツリリングカー選手権)で活動。今季、初参戦し、第3戦で3位に入った。元F1ドライバー、ゲルハルト・ベルガーの甥に当たる。



<https://twitter.com/lucasauer1>

51 ハリソン・ニューウェイ

Harrison NEWEY
1998年7月25日生 / イギリス



RANKING - POINTS 0

ジュニアフォーミュラ、F3を経て、昨年はスポーツカーレースに参戦。今季、日本のレースに初参戦を果たす。父はレーシングカーデザイナーのエイドリアン・ニューウェイ。



<https://www.harrisonnewey.com>

TCS NAKAJIMA RACING HONDA

ティーシーエス・ナカジマレーシング

64 アレックス・パロウ

Alex PALOU
1997年4月1日生 / スペイン



RANKING 13 POINTS 3

2017年に全日本F3で鮮烈デビューし、年末のスーパーフォーミュラルーキーテストでも速さを示す。昨年はユーロF3を戦い、今季スーパーフォーミュラ初参戦。第2戦で6位初受賞。



<https://www.alexpalou.com>

65 牧野任祐

Tadasuke MAKINO
1997年6月28日生 / 大阪府



RANKING 9 POINTS 6

カート時代に頭角を現し、2016年に全日本F3へ。ユーロF3を経て昨年はFIA F2を戦い、日本人初のレース1優勝。今季デビューの開幕戦でポールポジションを獲得した。



<http://team-tadasuke.com/>

千代勝正が語る 富士スピードウェイ

OTSで抜きつ抜かれつのストレート



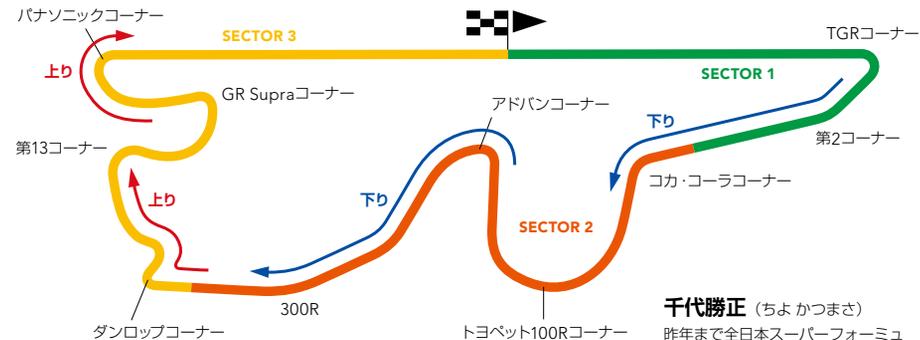
富士の名物はやっぱり1.5kmのストレート。国内で最高速が出るのが特徴です。昔は超高速サーキットでしたが、今はダンロップコーナーから先のセクター3がテクニカルになって、そのコーナーの形が、まさに「ティルケ・サーキット」(※)です。単純に曲がっているというのではなく、入口と出口でR(カーブの半径)が変化しますし、少し意地悪なコーナーが続きます。まずストレートから1コーナー(TGRコーナー)へのブレーキングは110~120m手前ぐらい。それだけ奥でブレーキングに入るんですが、時速310kmぐらいから時速70~80kmぐらいまで一気に減速するので、すごくブレーキングG(重力)がかかります。ストレートでタイヤが冷えますし、スピードを稼ぐためにダウンフォースも他のコースより少なめなので、ブレーキがロックしたり不安定になりやすく、ドライバーにとっては難しい場所です。1コーナーのライン取りはアウト・イン・アウトですけど、中間から出口にかけては下っているので中間でフロントのグリップが抜けやすい。それに下っているので出口が見えにくいんです。ただ、もちろん1コーナーはオーバーテイクポイントでもあります。以前はイン側が防御ラインでしたが、最近

アウト側から大外刈りで抜いていくというパターンも出てきましたね。OTS(オーバーテイクシステム)を使うタイミングによって、抜きつ抜かれつのバトルになる可能性もあると思います。コカ・コーラコーナーは国内屈指の高速コーナー。高い速度で入って、そのまま抜けていくので、コース幅は目いっぱい使います。予選だとトラックリミット(走路内)をオーバーするドライバーも結構いますよ。ダウンフォースを活かして、思い切り飛び込んでいくコーナーです。ボトムスピードで時速200km近いと思いますね。続くトヨペット100Rコーナーは、今のSF19だとほぼ全開に近いでしょうけど、SUGOの最終コーナーに次ぐぐらい、ものすごいGがかかるコーナー。ライン取りは結構個性が出ますね。ただ、ハイパワーのクルマは少し小回りな感じ。出口で影らみ過ぎずに、ヘアピン(アドバンコーナー)に向けて外からまっすぐにブレーキングに入ります。ライン取りは人によって差がありますね。300Rに向けてのスピードがすごく大切なので、立ち上がりが必要。そこからは全開で時速250~260kmぐらいまで出ているところから、ダンロップコーナーに向けてフルブレーキングで6速から1速、2速まで落として行きます。ここでは一つ目でしっかりインにつくのが大切。ここから上りになるので、2つ目の立ち上がりも重要です。クルマによってトラクションのかけ具合の良

し悪しがありますね。次の13コーナーは逆バンクがついていて、先が見えづらいコーナー。ブレーキからターンイン(直進状態から旋回に移っていくこと)でリヤの姿勢が乱れやすいですね。ライン取りはアウト・イン・アウトですけど、割と早めに寄っていかないとインにつけません。出口はアウトを思い切り使って立ち上がります。最後のGRスーパーコーナーとパナソニックコーナーはいずれも複合

コーナー。ブレーキングの時点から旋回が始まっています。入口は広めにラインを取って早めにインにつき、いずれも直線的に立ち上がりたんですけど、タイミングが取りづらい。突っ込みすぎるとリヤが流れますし、ブレーキで止めすぎるとアクセルを踏めない時間が出てきてしまうので、リズムが取りづらいですね。ただ、最終コーナーは、直線につながる一番大事なコーナー。ここもドライバーによって個性が出る場所ですね。

COURSE DATA
全長: 4.653km
コースコード: 122.572
A. ロッペラー (PETRONAS TOM'S SF14)
2014.5.17



千代勝正 (ちよかつまさ) 昨年まで全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦し、今季はインターナショナルGTチャレンジにフル参戦する現役ドライバー。今季は全日本スーパーフォーミュラでピットレポーターとしても活躍する。

過去3年の結果 (優勝者 | PP)

2018	N.キャンディ (ORIENTALBIO KONDO SF14)	N.キャンディ (ORIENTALBIO KONDO SF14)	2017	石浦宏明 (P.MU/CERUMO-INGING SF14)	国本雄資 (P.MU/CERUMO-INGING SF14)	2016	J.P.テ・オリベira (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	S.バندوقン (DOCOMO DANDELION M415 SF14)
------	----------------------------------	----------------------------------	------	--------------------------------	--------------------------------	------	--	---------------------------------------

SHORT INTERVIEW

B-Max Racing with motopark

本山 哲

聞かれた質問に対して答えられないことはない

Q: 今季はチーム体制が変わりました。

「今年は(ヨーロッパの)モトパークとジョイントしています。新しい形で日本のモータースポーツに参戦するのはすごく興味深いし、この大きなプロジェクトを形にして結果につなげていくという部分では楽しみなので、やりがいがあります。一方で、彼らと目指すところは同じでも、その方法が日本のチームとやり方が違ったりするのは興味深いです。仕事は一生懸命やっています。他のチームよりも夜遅くまで作業もしていますね。ただ、まだ日本のスーパーフォーミュラのクルマとタイヤ、サーキットに対して、まだフィットしていない部分があるのも事実です」

Q: 日本のスタッフは戸惑っていませんか?

「どうしても“言葉の壁”はありますよね。でもそれはお互いさま。具体的にはクルマの整備の仕方やアライメントの取り方も違ったりします。確かに作業の進め方が違っていたので、オフシーズンのテストや開幕戦あたり

までは、まだそのすり合わせがうまく行ってませんでした。ただ、チームの軸足はモトパークにあるので、一緒に時間を過ごしながら『ここはこういう方がいいんじゃないか』と、ミーティングでお互いにちゃんと意見を出し合い、その中でどれがいい形か試行錯誤しながらこれまでやって来ています」

Q: チームドライバーに対しては?

「ふたりにとって初めてのスーパーフォーミュラ。速さの面は他のカテゴリーからステップアップしてきた状態ですが、体力の面では昨年の12月のテストの時点から一切不安はありませんでした。首が痛いとか腕が上がるといったことはなく、事前に戦いがタフになることを想定してしっかりと準備をして来ていたので、その点は感心できました」

Q: モトパークは“ドライバー本山”からのフィードバックを期待しているのでは?

「向こうにとって、すべてが初めてのことがら。とはいえ、チームスタッフのみんなは

もとやま・さとし

1971年3月4日生まれ、東京都出身。幼少期からポケットバイクに乗り、その後レーシングカートを経て、1990年に4輪デビュー。ステップアップクラスで活躍し、96年に全日本選手権フォーミュラ・ニッポンへ初参戦。98、2001、03、05年と4度シリーズ制覇を達成し、通算勝利数および通算PP獲得数は歴代1位。全日本GT選手権&SUPER GTでも3度タイトルを獲得している。



すごく力を持っている。当然、時間をかければいい結果も出ででしょう。けれど、このカテゴリーはシーズン中のテストが一切なく、走る時間もごく限られる。その中でいかに効率よくいい結果を得るかを考えると、僕がすべての部分で対応すべきですね。基本的には、“聞かれた質問に対して答えられないことはない”と思ってます。日本のサーキットは全部知ってるし、スーパーフォーミュラのこともしっかりわかってる。僕が持っているノウハウや考えを使うことで、うまく結果に繋がればと思いますね」

Q: チームとして試行錯誤が続く中、監督としての当面の目標は?

「大半がベテランチームという日本のトップフォーミュラの中で、チームとしてゆくゆくはトップ3に入れるように……という思いがあります。もちろん、僕個人としては日本人の速いドライバーが出てきて欲しいのですが、外国人ドライバーの参戦が増えてることによって、いろんな意味で全体が切磋琢磨してレベルが上がって欲しいという気持ちもあります。それだけ世界中から注目されていることは、すごくおもしろいことですからね」



観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……

公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利!

<http://superformula.racelive.jp/>



リザルトやコメントを見るなら……

公式サイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載!

<http://superformula.net>

リアルタイムな情報収集には……

Twitter

SUPER FORMULA公式アカウント @super_formula

TOYOTA GAZOO Racing @toyota_gr

HondaモータースポーツLive @hondajp_live

公式ハッシュタグは「#sformula」

記事やダイジェスト動画は……

Facebook

スーパーフォーミュラ公式Facebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

YouTube

YouTube公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>



SUPER FORMULA OFFICIAL SHOP

全日本スーパーフォーミュラ選手権 2018年総集編DVD発売中!

世界が注目する国内トップフォーミュラ、SF14ラストイヤーとなる激動の1年間を振り返る。2018年シーズンの全7戦をダイジェストで収録。完全保存版!

特典映像: SUPER FORMULA 2018 シーズンPV、SF19 デモラン (佐藤琢磨&中嶋一貴・ランデブー走行)

価格: 5,400円(税込)



全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 富士スピードウェイ 公式プログラム販売中

西ゲート、総合案内所、総合案内所前チケットブース、WEC富士PRブース、レストラン "ORIZURU" で販売しています。

価格: 1,000円(税込)



オフィシャルファンクラブ CLUB F 新規会員受付中!

年間パスの販売や各大会ごとのオリジナルチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定! 詳しくは公式サイト(<https://superformula.net/sf2>)内のファンクラブページをご覧ください



AUTOBACS Motorsports Conference オートバックスモータースポーツ連絡協議会



KTEL RACE SERVICE

TV放映/映像配信

B/Sフジ

BSフジ 決勝レース中継

『2019スーパーフォーミュラ選手権 第4戦富士スピードウェイ』

今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の午後5時~6時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レースの見どころ、ルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただけます。実況はフジテレビでのモータースポーツ実況経験を持つ塩原恒夫が担当。解説にはレーシングドライバーの土屋武士があたります。また現役ドライバーでもある千代勝正がピットレポーターを務めます。

○放送時間: 7月14日(日) 午後5時00分~6時55分



BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

スーパーフォーミュラの情報番組としてホットな話題を提供する「スーパーフォーミュラGO ON!」。今年は、国内外から多くの若手ルーキーなど注目ドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎えてお送りします。番組の進行役は本田朋子アナ、ナレーターは乃木坂46の樋口日奈が担当します。

○放送時間: 第5回 8月9日(金) 夜 11時00分~11時55分
8月11日(日) 深夜 1時00分~1時55分(再放送)

J SPORTS『スーパーフォーミュラ2019』

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェストも放送します。



○放送時間: 7月13日(土) 午後2時30分~ J SPORTS 3
7月14日(日) 午後1時15分~ J SPORTS 3

GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信予定。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>



TIME SCHEDULE タイムスケジュール

RACE レース
7月13日(土)
8:00- 8:15 KART 予選
8:25- 8:55 F3 予選
9:05-10:05 SUPER FORMULA フリー走行
10:20-10:40 TCR 予選
10:50-11:30 ビットウォーク
11:50-12:10 N-ONE 予選
12:32- KART 決勝[7Laps]
13:45- F3 第11戦 決勝[15Laps]
14:45-15:05 SUPER FORMULA 公式予選(Q1)
15:15-15:22 SUPER FORMULA 公式予選(Q2)
15:32-15:39 SUPER FORMULA 公式予選(Q3)
16:10- TCR サタデーレース決勝[23min+1Lap]
17:05-17:35 キッズビットウォーク
7月14日(日)
8:10- 8:30 TCR 予選
8:40- 9:20 SUPER FORMULA フリー走行
9:50- N-ONE 決勝[7Laps]
10:40-11:20 ビットウォーク
11:55- TCR サンデーレース決勝[23min+1Lap]
13:45- SUPER FORMULA 決勝[55Laps]
16:05- F3 第12戦 決勝[21Laps]

EVENT イベント
7月13日(土)
7:45- 8:00 オープニングステージ MC:水村リア、笠原美香
8:15- 8:30 サーキットクイーンステージ 出演:富士スピードウェイイメージガール クレインズ MC:水村リア、笠原美香
11:00-11:15 SF予選直前トーク 出演:千代勝正 MC:水村リア、笠原美香
12:10-12:30 WEC 富士トークショー 出演:中嶋一貴選手、小林可夢偉選手、寺田陽次郎WECアンバサダー MC:勝又智也
12:35-12:55 SFドライバートーク 出演:福住仁選手、坪井翔選手 MC:水村リア、笠原美香
13:05-13:20 SFビギナーズトーク 出演:YOKOHAMA promotional models&スペシャルゲスト MC:水村リア、笠原美香
14:00-14:30 レースクイーンステージ 出演:各チームレースクイーン MC:水村リア、笠原美香
17:05-17:25 テクノロジーラボラトリー 出演:両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト MC:笠原美香
7月14日(日)
7:30- 7:45 オープニングステージ MC:水村リア、笠原美香
7:45- 8:00 サーキットクイーンステージ 出演:富士スピードウェイイメージガール クレインズ MC:水村リア、笠原美香
9:20- 9:50 レースクイーンステージ 出演:各チームレースクイーン MC:水村リア、笠原美香
10:25-10:40 SFポールポジションドライバートーク 出演:ポールポジション獲得ドライバー MC:水村リア、笠原美香
11:00-11:15 SF決勝直前トーク 出演:千代勝正 MC:水村リア、笠原美香
12:00-12:15 SFビギナーズトーク 出演:YOKOHAMA promotional models&スペシャルゲスト MC:笠原美香
15:30-15:50 テクノロジーラボラトリー 出演:優勝チームエンジニア、両角岳彦、浅見理美 MC:水村リア、笠原美香
16:00-16:15 SF優勝ドライバートーク 出演:優勝ドライバー MC:ビエール北川、水村リア、笠原美香

*スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。